

ホタテ浮遊幼生湾中央部に多数出現!!

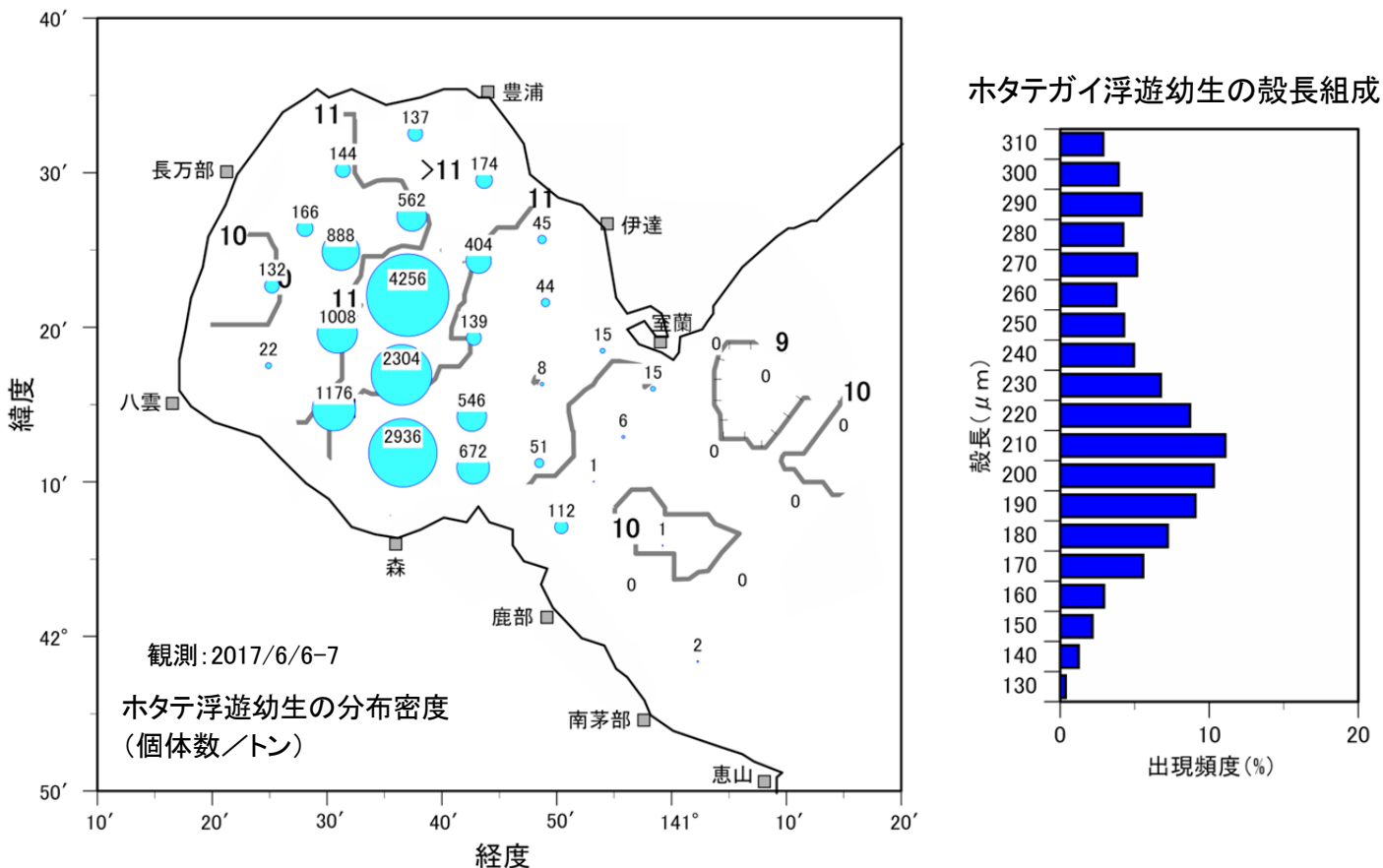


図 1 (左)ホタテガイ浮遊幼生分布密度(○印, 個体数/トン)と 10m 深水温(灰色線)の水平分布。(右)全調査地点で平均したホタテガイ浮遊幼生の殻長組成。調査期間: 2017 年 6 月 6~7 日。

【概要】

2017 年 6 月 6~7 日におけるホタテ浮遊幼生の出現状況をお知らせします。ホタテ浮遊幼生は湾中央部を中心に約 1,000 個体台と多数出現しています(図 1 左)。湾内の沿岸寄りの海域では、ホタテ浮遊幼生の分布密度は、森沖を除き、湾中央部に比べ低くなっています。湾中央部渡島側の海域には時計回りの渦が形成されており(図 2)、この渦形成がみられる海域でホタテ浮遊幼生の分布密度が高くなっています。したがって、湾中央部でホタテ浮遊幼生が多く分布したのは、沿岸寄りに分布していたホタテ浮遊幼生が渦の形成に伴い湾中央部に集積したためと考えられます。

湾外ではホタテ浮遊幼生が出現しない地点が多くみられます(図 1 左)。湾外でホタテ浮遊幼生数が少ないのは、反時計回りの流れが湾口部を塞ぎ、湾内は閉鎖的になっているためと考えられます(図 2)。

ホタテ浮遊幼生の殻長組成では 200~210 μm の割合が最も高くなっています(図 1 右)。既にホタテ浮遊幼生の付着は始まっていますが、6 月中~下旬にかけて、まとまった付着が見込まれます。

今回でホタテ浮遊幼生調査は終了します。

(連絡先:函館水産試験場 西田 TEL:0138-83-2893)

この情報は以下の函館水試ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/tpc05300000081x.html>

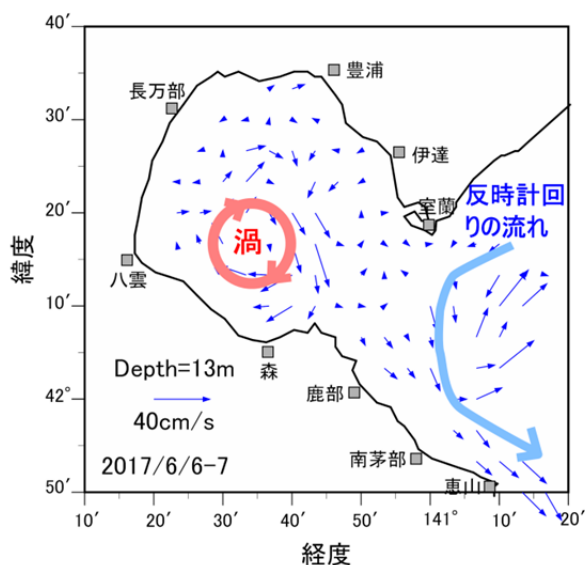


図 2 深度 13mにおける流速ベクトルの水平分布